

安全データシート

作成: 2018年12月27日

改訂: 2023年 4月15日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KI098-02
製品名 : ダニコングフロアブル
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3823-6830
緊急連絡先 : 平日 午前9時～午後5時 (電話番号03-3822-5180)
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(腎臓)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分1(副腎) 区分2(心臓、血液系、 生殖器、腎臓、甲状腺)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	: 区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分2

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

- ・臓器(腎臓)の障害
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(副腎)の障害
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(心臓、血液系、生殖器、腎臓、甲状腺)の障害のおそれ
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・環境への放出を避けること。

【応急処置】

- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別:混合物

化学名/一般名:

3'-イソブチル-N-イソブチリル-1,3,5-トリメチル-4'-[2,2,2-トリフルオロ-1-メトキシ-1-(トリフルオロメチル)エチル]ピラゾール-4-カルボキサニリド/一般名:ピフルブミド

成分及び含有量:ピフルブミド 20.0%

<その他> 界面活性剤、水等

官報公示整理番号:安衛法 8-(2)-2498 ピフルブミド

CAS No.: 926914-55-8 / ピフルブミド

4. 応急措置

吸入した場合：被災者を速やかに空気の新鮮な場所に移す。異常が現れた場合には、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱ぎ、付着部を多量の水と石けんでよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水を与える。意識がないときには口から何も与えてはならない。医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火時の注意：消火活動には適切な保護具（自給式空気呼吸器等）を着用し、風上から作業する。燃烧又は高温により有害なガスが発生するおそれがあるので、発生するガス、煙を吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川等の水系に流れ込まないように適切な処置をとる。

適切な消火剤：粉末、泡沫、炭酸ガス、霧状水、水

使ってはならない消火剤：情報なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具（保護衣、保護眼鏡、保護マスク等）を着用して、眼や皮膚に触れたり、ミスト、ガスを吸い込んだりしないようにする。

環境に対する注意事項：漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように設置する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材：漏出物を土、砂、オガクズ等に吸収させて密封できる容器に回収する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い：局所排気装置を設置し、換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用し、ミストや液滴を吸い込んだり、眼、皮膚に触れたりしないようにする。

作業後は、すみやかに眼、手、顔をよく洗う。

保管：換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かない所に施錠して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策: 局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、安全シャワー設備を設置する。

保護具: 状況に応じた適切な保護具を着用する。

保護マスク、保護眼鏡、保護衣(長袖・長ズボン)、ゴム手袋
作業時に使用していた衣類等は他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	: 類白色粘稠懸濁液体
臭い	: データなし
pH	: 6.5~9.5(20°C)(1% 水懸濁液)
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: > 93 °C(引火性なし)
自然発火点	: 常温で空気と接触しても自然発火しない。
可燃性	: なし
爆発下限及び爆発限界上限界/可燃範囲	: データなし
相対ガス密度	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.05~1.11(20°C)
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子性状	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の実用条件では安定。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼すると有害ガスが発生する可能性がある。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット(♀) LD ₅₀ > 2,000 mg/kg (中毒症状および死亡例なし)
----------	---

急性毒性(経皮)	:ラット LD ₅₀ > 2,000 mg/kg (中毒症状および死亡例なし)
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	:混合物に1%以上含まれ分類できる成分は全て区分に該当しないことから区分に該当しないとした。毒性未知成分量は12.3%。
皮膚腐食性/刺激性	:ウサギ 刺激性なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:ウサギ 無刺激物
呼吸器感受性	:製剤のデータなし
皮膚感受性	:モルモット 陰性(Buehler 法)
生殖細胞変異原性	:製剤のデータなし
発がん性	:製剤のデータなし
生殖毒性	:製剤のデータなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	:区分1(腎臓)に分類されるピフルブミドを区分1の濃度限界である 10%以上含有することから、区分1(腎臓)とした。毒性未知成分は 12.3%。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	:区分1(副腎)、区分2(心臓、血液系、生殖器、腎臓、甲状腺)に分類されるピフルブミドを区分1及び区分2の濃度限界である 10%以上含有することから、区分1(副腎)、区分2(心臓、血液系、生殖器、腎臓、甲状腺)とした。毒性未知成分は 12.3%。
誤えん有害性	:製剤のデータなし

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性):

オオミジンコの毒性データにより区分1とした。

水生環境有害性 長期(慢性):

慢性区分1に分類される成分含量及びその毒性値から推定し、区分2とした。毒性未知成分量は 12.2%。

生態毒性:

魚類 :コイ LC₅₀ > 1,000 mg/l (96時間)

甲殻類 :オオミジンコ EC₅₀ 0.80 mg/l (48時間)

藻類 :緑藻^{#1} ErC₅₀ > 1,000 mg/l (0-72時間)

NOECr 0.32 mg/l (0-72hr)

(#1: *Pseudokirchneriella subcapitata*)

残留性・分解性

:製剤のデータなし

生体蓄積性	: 製剤のデータなし
土壌中の移動性	: 製剤のデータなし
オゾン層への有害性	: 製剤のデータなし
その他	: なし

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後処分する。

14. 輸送上の注意

移送取扱いは丁寧に行う。
輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にする。車輦、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処分に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類	: クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ
国連番号	: 3082(環境有害物質、液体)
国内規制	
海上規制情報	: 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
陸上規制情報	: 道路法の規定に従う。

15. 適用法令

農薬取締法	: 登録番号 第23946号 (日本農薬株)
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	
	: 非該当
毒物劇物取締法	: 非該当

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献: 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
4) GHS文書 改訂第6版(2015年)
5) 日本農薬(株) ダニコングフロアブル 安全データシート
(2022年5月23日改訂版)

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪(年中無休、24時間) 一般市民向け相談電話(無料) 072-727-2499

医療機関専用有料電話 072-726-9923

つくば(毎日9時~21時) 一般市民向け相談電話(無料) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。